

平成 29 年度 特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター

事業報告書

■ 施設名

特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター白朋苑

■ 事業報告

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

大岡地区：連合町内会と地区社会福祉協議会をつなげるために連絡協議会を発足した。組織として関係性が整っており、地区全体での活動や取り組みを積極的に行っているが、地域支援者が固定化されている印象がある。藤の木町内会は独自に活動しており、町内会内での連携、活動を活発に行っている。今後も、情報伝達が不十分にならないように支援していく必要がある。昨年度に行われた民生委員・主任児童委員の任期満了に伴う一斉改選では、複数人の改選があり、引き継ぎ時の混乱が生じないように支援する必要がある。

別所地区：地区の大半が丘陵地である為、障害者・高齢者の外出が困難になりやすい傾向がある。それぞれの組織や町内会単位で活発に活動し支援体制を構築している。平坦地にはマンションが新設され、転入した住民には子育て世代が多いことから、町内会ごとに高齢人口比率に差が生じていることもあり、町内会間に活動量の差が生じている印象がある。ボランティアグループは安定した運営を行っている。今後も継続できるよう、広報などの後方支援を行っていく。

包括エリア全体：港南区と磯子区に隣接し、駅間の中間に位置している為商業施設が少ない。また、ケアプラザや地区センターがないため、地域住民が集える場所が限られている。大岡地区、別所地区共に地域活動の必要性を認識し、実際に活発に活動をしているが、既存のインフォーマルサービスでは数、量ともに不足している印象がある。生活支援体制整備事業を推進し、インフォーマルサービスの充実と地域包括ケアシステム実現に向けた、医療と介護の連携や地域住民とのネットワーク構築を継続する。

(2) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

- ・ 自主事業や貸館、施設行事等を通して地域住民への情報提供を行ったほか、ホームページや広報誌、地域の掲示板を活用し、地域包括支援センターの役割についてPRを継続した
- ・ 高齢分野の相談では、内容によって介護保険サービスだけでなく、元気作りステーションやボランティア等のインフォーマルサービスの紹介を行った
- ・ 大岡地区、別所地区共に継続して定期訪問事業連絡会や連合町内会、単位町内会活動、老人会に参加し、地域包括支援センターの機能や役割についての説明を継続し、新規事業内容の紹介や報告を行った。包括事業が地域支援者に周知され、関係づくりが整ってきたことにより、地域支援者から地域住民への地域包括支援センターについての普及啓発をしていただくことが増え、新たな相談につながった

(3) 各事業の連携

- ・ 包括事業として、サロン文化祭や高齢者食事会、施設事業として納涼祭などのイベントだけではなく、子育て支援や貸館管理、介護予防事業、認知症事業など、生活支援コーディネーターと協働して行った。また、イベント時には民児協などの地域団体や施設内他事業所職員も協働し、施設職員と地域との関係づくりを図った
- ・ 地域ケア会議を活用し、コミュニティー・アズ・パートナーモデルでの地域ケア会議で取り上げられた課題について、地域関係団体、地域にある民間企業などと共に検討した

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・ 高齢者食事会など包括事業に、施設内他事業所職員も参加し、施設全体で地域との連携を深める取り組みを行った。このことが、特養併設型包括支援センターのマンパワー不足改善につながった
- ・ 包括内会議が定着したことにより、各職員が行っている事業の情報共有が出来た

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・ 第3期区全体計画で掲げている“日ごろから声を掛け合い、つながり・支えあいの関係をつくろう”を実現するため、地域のお祭りや行事などへ参加し顔の見える関係作りを行った
- ・ 第3期大岡地区計画で掲げている“日ごろから声をかけあい、支えあえる地域づくりのために”を実現するため、大岡地区連絡協議会の一員として交通安全教室、健康福祉まつり、音楽祭の企画・運営を行った
- ・ 第3期別所地区計画で掲げている“支援が必要な人と支援できる人をつないで、地域の支えあいを広げるために”を実現するため、地域のボランティアグループであるスマイルサポート別所の定例会担当を決め、連絡窓口として情報共有しやすい環境を整備した。また、広報誌を活用しての広報活動や活動活性化のため利用者の紹介を行った。また、継続して別所地区南ヶ丘中学校防災拠点での防災訓練への参加や今年度から単一町内会の要支援者サロンや防災訓練にも参加した
- ・ 地域サービス事業所の運営推進会議への参加を継続して行った（今年度新たに地域密着型DSが増え、合計7箇所）。又、会議以外にもカフェや防災訓練などに参加、協働することにより、利用者個別ケースに対する相談が出来るネットワークづくりに繋がっている
- ・ 地域ケア会議に民間事業者（コンビニ、配食業者）やこれまであまり関わりのなかった行政機関（警察）に参加いただき、地域で気になる高齢者の見守りについて検討を行った。参加したコンビニからは気になる来店者の相談が寄せられるようになっている

(6) 区行政との協働

- ・ 個別ケース対応について、定例カンファレンス以外の場でも緊密に情報共有、協働した支援を行い、困難事例の問題解決に向けた取組を行った
- ・ 介護予防事業や認知症予防事業などについても、助言を受けながら協働して支援を行った
- ・ 地域支援チームメンバーとして、定例会に参加し、地域課題について情報共有し、新たなネットワーク構築のための連携を図っている

2 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

【別所地区】

- ・白朋苑ホームページ内の生活支援コーディネーターのブログのボランティア紹介コーナーにて、「スマイルサポート別所」の活動内容の紹介、ボランティア募集の周知を行った。また、別所地区のサイゼリア及びイトーヨーカドーへチラシ掲示の協力をしていただき、実際にそれを見た方がボランティア活動に加わった
- ・イトーヨーカドーへネットスーパーの勉強会を企画・提案したが、担当者の変更等で今年度は実施できなかった。ただし、CSR 担当の方とは打ち合わせ等で数回お会いすることが出来、白朋苑包括については認知していただけ

【大岡地区】

- ・単位自治町内会における住民による支え合いの仕組み作りについて、大谷戸町内会および大谷戸さくら会(老人会)と検討した。町内会はニーズの認識について差があり話し合いが進まず、老人会は新たな仕組み作りには消極的であったため実現には至らなかった

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- ・それぞれの会合に出席させていただいたが、こちらからの情報提供の場面が多く、ニーズの把握・分析までは至らなかった
- ・エリア内のサロンやサークル活動を訪問、ヒアリングし、それぞれ団体の成り立ちから補助金の有無、困りごと等の把握が出来た。また、ホームページへの掲載を了承してくれた団体には、後日成果物を持参し関係性構築を行った
- ・定期的に総合相談票を見させていただき、有償ボランティアが必要なケースや、要支援の方でも参加できる集いの場の必要性について把握できた
- ・新しく得た地域活動の情報については、平成 28 年度版「地域活動・サービスリスト」を更新した。また、サロンやサークル活動へ訪問した際は、随時ホームページで活動記録を更新した

(3) 連携・協議の場

- ・6月に大岡地区、別所地区のサロン及びボランティア活動関係者計8団体の代表メンバーに集まいただき「大岡・別所 サロン・ボランティア連絡会」を実施した。活動を始めたきっかけや新しい担い手の発掘について意見交換した。その中で、自地区にはボランティア活動団体がないので参考にしたい、という前向きな意見が聞かれた
- ・7月に八森先生を講師としてコミュニティーアズパートナーシップ手法を用いた包括版地域ケア会議を実施した
- ・10月に別所地区保健活動推進員及び南区食生活等改善推進員会主催の「出張版「健康力」チェック！！」に、包括職員と区役所福祉保健課及び高齢障害支援課と共に協力団体として関わった。今年はイトーヨーカドー正面出入り口付近の限られたスペースであったが、健康づくりへの関心の高さがうかがえた。又、その際地域包括支援センターのポスターを掲示しながら、地域の集う場や介護予防教室について情報提供を行った

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- ・丘陵地の住民の買い物手段の一つとして、イトーヨーカドーと六ツ川地域ケアプラザと連携し、ネットスーパーの勉強会を企画・提案したが、実現までには時間がかかりそうである。別案として、今年度はKDDIの方を講師として招き、「シニア向けスマートフォン教室」を実施し、スマートフォンのアプリの使用について学んだ。(10月と11月に実施)定員を超える申し込みがあり、地域の方の関心の高さがうかがえた。又、六ツ川地域ケアプラザと連携したことにより、参加対象者のエリアが広がり、より広域の方に今回の事業を知ってもらうことが出来た

3 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

- ・大岡・別所地区の民児協へ定期的に参加したほか、不定期で大岡・別所地区の連長会議、藤ノ木地区の班長会議、大岡・別所・藤ノ木地区の老人会へ出席し、地域包括支援センターの機能や役割の周知を行い、いつでも相談出来る体制の構築に努めた。実際、民生委員を始めとする地域の福祉保健関係者から相談が寄せられている
- ・各関係団体や地域支援者から、地域住民に向けた制度の説明や権利擁護についての学習会、介護予防出前講座の依頼があった。別所地区定期訪問事業連絡会、地区社協と協働し、医療講演会『いつまでも健康な体とは。』を開催した。1月には、大岡地区定期訪問事業者連絡会と医療学習会を開催した
- ・地域ケア会議において地域の福祉保健関係者だけでなく、地域で業務に携わる行政機関、民間事業者に参加していただいたことで包括の機能の周知が図れ、参加した民間事業者(コンビニ)から気になる来店者の相談が寄せられるようになった

②実態把握

単位自治町内会における住民による支え合いの仕組み作りについて、大谷戸町内会および大谷戸さくら会(老人会)と検討した。町内会はニーズの認識について差があり話し合いが進まず、老人会は新たな仕組み作りには消極的であったため実現には至らなかった

③総合相談支援

- ・受け付けた相談内容を3職種で情報共有。相談内容によって適切な担当への割り振りを行う事でより迅速な支援を行う事が出来た
- ・常時相談を受け付けられるよう、電話受付当番の体制を継続している

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・ 高齢者住宅での茶話会（2箇所）で消費者被害をテーマにミニ講座を実施。チラシ等も併せて配布し、普及啓発を行った
- ・ 消費者被害に遭ったケースでは、消費者生活総合センターと連携を図りながら被害を最小限に留めた
- ・ 年度前半には、区役所と協同し、成年後見サポートネットワークを開催し、成年後見制度の周知を図り、活用促進を図った
- ・ 社会福祉士が町内会（1箇所）で成年後見制度について講座を実施し、制度について普及啓発を行った
- ・ 成年後見人等への申し立て支援は、本人申し立てによる任意後見2件、法定後見では親族申し立て2件、本人申し立て1件の申し立て支援を行った

② 高齢者虐待への対応

- ・ 虐待分科会で作成した高齢者虐待防止普及啓発用のスライドを使用し、民生委員（2名）向けに講座を開催した
- ・ 介護者サロンを毎月1回定期開催し、平均参加者は4名前後だが、それぞれが毎回気兼ねなく介護について話し合える場として定着している
- ・ 虐待ケースにおいて関係者と密に連携を図った事で、有事に対しても迅速に対応ができた
- ・ 虐待へのケース対応では、関係機関と連携を図りながら解決に向けて支援を行った

③ 認知症

- ・ 認知症カフェ（にっこりカフェ）は定期的で開催できており、毎回約15名の幅広い年齢の方々が参加されている。認知症の高齢者と幼児が触れ合う場面もあり、異世代交流の場としても機能している
- ・ 認知症サポーター養成講座を民生委員約20名、老人クラブ（友愛）約40名を対象として2回実施。定期訪問事業等で認知症の方と関わる機会の多い地域住民へ認知症の正しい理解を促す事が出来た

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・ 民生委員とケアマネジャーとの交流会は開催していないが、それに代わるものとして、地域ケア会議にて地域福祉保健関係者のほか、地域で業務に携わる行政機関や民間事業者に参加していただいたことで地域住民、関係機関等との連携推進が図れた
- ・ 老人会や町内会の定例会にて介護保険制度やサービス利用についての普及啓発を行った
- ・ 地域での高齢者支援の情報について、冊子としてまとめたがケアマネジャーへの配布には至っていない

②医療・介護の連携推進支援

- ・ 包括協力医の協力を得て医療・介護連携推進のための勉強会“ケアマネホームルーム”を立ち上げた
- ・ 南区在宅療養支援ネットワーク会の事例検討会や総会に参加し、医師・歯科医師・薬剤師・病院 MSW・ケアマネ・サービス事業者など多職種による連携を図った
- ・ エリア内の医療機関、居宅介護支援事業所を訪問したほか、サービス事業所には運営推進会議の場を通して包括事業の周知を行い円滑に連携が行える体制を整えたが、医療機関および調剤薬局は全件の訪問は出来ていない

③ケアマネジャー支援

- ・ 区、南区包括合同で経験年数3年程度のケアマネジャーを対象として新任ケアマネジャー実習を行った（5月～11月まで7回実施）
- ・ 区、南区包括合同で現任ケアマネジャー向けの研修を行った（2回）
- ・ 南区ケアマネジャー連絡会“あったかネット南”、区、南区包括合同で現任ケアマネジャー向けの研修を行った（1回）
- ・ 包括協力医の協力を得て、医療・介護連携に関する勉強会“ケアマネホームルーム”を開催し、ケアマネの資質向上およびケアマネ同士の連携促進を図った
- ・ 支援困難事例に対しては、電話での助言のほか、同行訪問や区役所関係者を交えたカンファレンスを開催し問題解決を図った

（4）多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・ 包括レベル地域ケア会議では、架空の個別ケースを通して地域課題の抽出を行い、“支援が必要そうだが生活実態が見えにくい人の支援をどのように行うか”という課題が挙げられた
- ・ 2回の個別ケース地域ケア会議を開催し、包括レベル地域ケア会議で挙げられた課題について継続して検討を行った。会議では、医療・介護の専門職や地域福祉保健関係者だけでなく、多職種による協働という視点から地域で業務に携わる行政機関（警察）や民間事業者（コンビニ、ドラッグストア、配食サービス事業者）にも参加を要請し、個別課題の把握と課題解決に向けた検討を行った

（5）介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・ 南区内他包括と共催し、インフォーマルサービスを取り入れた介護予防ケアマネジメントを推進するための研修を開催した
- ・ インフォーマルサービスについて、委託事業者やケアマネジャーに対し、問い合わせ時や担当者会議の場で情報提供を行った。情報を取り入れたプラン作成に繋がったケースもあった
- ・ 介護予防ケアマネジメント業務が適切に行われるよう、主任ケアマネジャーが中心となり、相談時にはケアマネジャー支援を行った

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- ・ 区版、包括出張版お元気で21健診を3カ所で開催した
- ・ 介護予防サポーターや脳トレボランティア、介護予防グループでのボランティアが、積極的に活動に参加した。お元気で21健診時だけではなく、地域での出前講座などでも講師役として活躍する存在になっている
- ・ 地域にある町内会館やコミュニティハウスを活用し、介護予防普及啓発事業として、地域住民に介護予防講座を複数回開催した。また地域にある介護予防グループ支援の為、コグニサイズ講習会や認知症予防ゲームボランティアフォローアップ講習会をシリーズで開催した。昨年から参加している地域住民からは、講座の中で活発な質問があり、介護予防に関するボランティアの充実などの成果が感じられた
- ・ 昨年度立ち上げた介護予防グループに対し、定期的に話し合いの機会を設け、行事用保険の加入や元気づくりステーションへの移行など、継続した支援を行った。グループリーダーの選任や自主化に向けたボランティア活動があり、次年度からは3カ所のグループが自主化することとなった

4 その他

③総合相談支援

- ・ 受け付けた相談内容を3職種で情報共有。相談内容によって適切な担当への割り振りを行う事でより迅速な支援を行う事が出来た
- ・ 常時相談を受け付けられるよう、電話受付当番の体制を継続している

【介護保険事業】

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

・ H29.4.1～H29.12.31

管理者 1 名（常勤 1 名 ※看護師と兼務）

担当職員 5 名（常勤 4 名※うち管理者と兼務 1 名、非常勤 1 名）

・ H30.1.1～H30.3.31

管理者 1 名（常勤 1 名 ※保健師と兼務）

担当職員 6 名（常勤 5 名※うち管理者と兼務 1 名、非常勤 1 名）

《目標に対する成果等》

・ 要支援 1・2 の方のケアマネジメント業務が適切に、事業内容変更により混乱することなく行われるよう、必要時、他職種、区役所はじめ関係機関と連携を図り、委託している事業所やケアマネジャー支援を行った

・ 委託する事業所及びケアマネジャーと緊密に連携を図り、関係づくりを行った。また、自立支援のための計画立案が図れるよう、担当者会議に積極的に参加した

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
194	189	187	191	191	195
10月	11月	12月	1月	2月	3月
194	203	206	205	204	206

平成29年度 自主事業報告書

特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター 白朋苑

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
スモールワールド	子育て支援として親子サロンを開催。子育てに関する各種情報提供を行った他、子育てに役立つ知識の学習する場の提供を行った。 音楽遊び、乳幼児の栄養、乳幼児の口腔ケア、乳幼児の急病・救急時の対処法、クリスマス会、ひなまつり等	1回/月、第4火曜日開催(7, 8, 1月 休み)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
介護者サロン	介護者支援を目的として、介護に関する知識の学習の場の提供や介護者同士の情報交換や話し合い等を中心に行った。また、介護に関するミニ講座等も同時に開催した。	1回/月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
芋煮会	地域住民交流として高齢者食事会を開催。 大岡・別所地区民児協と協働し、準備運営を行った。	6/2(金)・12/1(金) 2回/年

事業名	目的・内容	実施時期・回数
にっこりカフェ	キャラバンメイトやボランティアと協働し、認知症予防及び支援の普及啓発を行う。対象者を地域住民全体に広げたことにより、子育て世代の参加も多く、異世代交流の場にもなっている。毎回子どもを含め20名程度の参加がある。 H30年4月1日より自主化が決定となった。	1回/月 第4火曜日 (12月のみ第3火曜日)

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ワンスリー水曜会	介護予防教室。白朋苑地下食堂で開催し、身近な地域で介護予防支援として開催。認知症予防ゲームや体操、楽器の合奏を行った。地域ボランティアによる自主事業化に向けた支援を行い、自主化へ移行済み。	2回/月 第1・3水曜日開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
2・4かよう会	介護予防教室。中里町友会館で開催し、身近な地域で介護予防支援として開催。認知症予防ゲームや体操、脳トレを行う。今後は、地域ボランティアによる自主事業化に向けた支援を行い、元気作りステーション“かよう吹き矢の会”として自主化となった。	2回/月 第2・4火曜日開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
1・3モクモク会	介護予防教室。別所町友会館で開催し、身近な地域で介護予防支援として開催。認知症予防ゲームや体操、脳トレを行う。地域ボランティアによる自主事業に向けた支援を行った。	2回/月 第1・3木曜日開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
白朋苑納涼祭(共催)	地域住民交流支援。白朋苑各事業所と協働し、企画立案、運営を行う夏祭り。今年度も幅広い年齢層の地域住民が参加した。	1回/年 8/5(土)

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
さんまを食べよう会(共催)	地域住民交流支援。白朋苑各事業所と協働し、企画立案、運営を行う。地域障害者施設や幼稚園児を招待し、異世代交流の場になっている。 今年度は悪天候の為、中止となった。	1回/年

事業名	目的・内容	実施時期・回数
成年後見講座 (新規事業)	成年後見制度とエンディングノートの活用について町内会向けに講座を実施した。	1回/年

事業名	目的・内容	実施時期・回数
消費者被害防止講座 (新規事業)	地域住民を対象として消費者被害防止講座を実施。老人会、高齢者住宅を対象として講座を行った。	3回/年

事業名	目的・内容	実施時期・回数
脳トレウォーキング (新規事業)	介護予防普及啓発。既存の介護予防教室まで来ることが困難な高齢者を対象とし、大岡3丁目公園や大谷戸公園での開催予定。事前にボランティア発掘、育成目的で4月～コグニサイズ講習会を開催し、実施時期や回数を検討を行った。 区役所やボランティア等を協働して、H30年4月より月2回で実施となっている。	H30年4月～

平成29年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアマネホーム ルーム	協力医の医師をオブザーバーとして招き、ケアマネジャー同士の譲歩交換や学びの場として開催した。 主治医との連携、ミニ医療講座、事例検討会等。	年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
アロマサロン	地域住民の集いの場としてアロマセラピー講座を開催。参加者がアロマを楽しみ、学ぶことで参加者同士のつながりを深めていく。 参加者との話し合いの結果、講座終了後はアロマさんとして自主化する事となった。	1回／月